

室に誘うて腹側を刺した。萬右衛門時に年四十九。その横死の難に罹つたのだから、秩祿邸宅を没收し、家財を遺族に與へ、十一日死屍を野町大蓮寺に葬らしめた。善藏は捕へられて竹田五郎左衛門忠順の家に拘せられ、暗殺の理由を質されたが實を答へず、唯亂心の致す所というた。吏乃ち亂心者を以て遇せられることの不利を諭したので、善藏は遂に番頭武田喜左衛門・坂井要人に對し所懐を述べた。蓋し萬右衛門が重致の左右に侍して能樂・放鷹の嗜好を極端に増長せしめ、又自ら侯の寵任に依頼して、威權漸く上を凌ぐものあつたを憤つたのであるといふ。因つて十五日八半時を以て死を竹田氏の庭上に賜うた。善藏の死に就いた時、御番頭武田喜左衛門・坂井要人、御横目今井恒右衛門・石川茂平、金谷御横目山本九郎大夫、同御小將頭江守平馬・神尾伊兵衛、同御番頭河地才記之に臨み、吉村安左衛門は介錯、永田直右衛門は介副の任に當つた。善藏享年廿二(實は十九)、衝漢院と諡し、大乘寺に葬つた。後天明六年正月廿五日特にその家を興し、村鐵三郎をして後を繼がしめ、新知百石を興へた。

**タカタタネハル** 高田種玄 通稱覺右衛門。延寶七年養父七右衛門の遺知二百石を襲ぎ、寶永元年割場奉行となり、正徳二年榮君附御用人となつて五十石を加へ、元文二年十二月晦日六十八歳を以て歿した。

**タカタタネマサ** 高田種政 通稱彌右衛門。元和六年父彌右衛門の遺知二百五十石を襲ぎ、後百石を加へ、寛文十二年歿した。

**タカタデンスケ** 高田傳助 初め織田信雄に仕へ、後豊臣秀吉に召出され、次いで秀次

に仕へた。其の後慶長元年前田利長に來仕して千石を領したが、一たび牢浪し、十年歸參して五百石・二百俵を受け、元和四年隱居、寛永五年歿した。子孫世々藩に仕へる。

**タカタデンベイ** 高田傳兵衛 大聖寺藩士。寶永三年九月六日夕、御馬廻番所で同勤堀江傳左衛門を斬り、自ら前庭に於いて自裁した。傳左衛門も亦幾くもなく命を殞したが、喧嘩の原因は明らかでない。

**タカタトキタネ** 高田時種 通稱彌藤次。彌右衛門。父助進直種早世したので、時種は寛文十二年祖父彌右衛門種政の遺知三百五十石を襲ぎ、貞享元年表御納戸奉行から次第に昇進して御留守居物頭に至り、二百石を増し、享保十七年十二月廿四日七十一歳を以て歿した。

**タカタブンドウ** 高田文堂 方水の子。通稱初め梅床。その脩司郎といふは後に藩侯から賜はつたものである。文堂はその號。定番御歩で書寫役から出で、享和三年新番に進み、文政二年新知百石を得て組外に列し、五年歿。子孫相襲いで藩に仕へる。

**タカタホ** 高田保 鹿島郡に在つた。承久三年注進の能登國田數目録には、『高田保、二町六段九、壽永三年券免』とある。後世亦高田保がある。

**タカタホ** 高田保 鹿島郡に屬し、藩政時代では、田鶴濱・川尻・新屋・垣吉・高田・杉森・下の七ヶ村を含んで居た。

**タカタホウスイ** 高田方水 名は吉房。書法を井出正水に學んで之を能くした。

**タカタモリザエモン** 高田森左衛門 慶應元年十一月加賀藩は高田森左衛門政二・岡本

峰國・小笹丈五郎・中脇鑄太郎・櫻井賢之丞・小林左近の六人を捕縛した。高田森左衛門は横山藏人の家來で、劍術・中巻・槍術の師範を業とし、時に年廿三。岡本峰國は奥村内膳の家來で、四十二歳。小笹丈五郎は横山義門の家來で二十歳。この二人は劍術・中巻の師範であつた。又中脇鑄太郎は長大隅守の家來。櫻井賢之丞は淺井孝五郎の家來で廿三歳。小林左近は能州中居村の鎗物師で廿五歳。賢之丞と左近とは森左衛門の内弟子であつた。公事場奉行多賀源助がその裁判に當つた。嫌疑の點は、森左衛門等が藩外に同志を得て何等かの陰謀を企てんとしたるにあつて、奉行は屢拷問を加へ白狀を迫つたが、皆事實でなかつたから、峰國以下の五人は放免せられたけれども、獨森左衛門は明治二年七月まで禁獄せられ、その妻にして大聖寺藩士二松喜問太の女であつた千鶴は先に牢死した。この嫌疑は、森左衛門等が大聖寺に至り、神道無念流の徒と劍術を試みたによるもので、その他の世に傳へられたる綺譚は凡べて架空なるもの、如くである。因にいふ。森左衛門等の捕縛を元治元年と記されてゐるものもあるが、それは誤であらう。何故なら、大聖寺の神道無念流日記に、元治二年(慶應元)七月四日高田・中脇の二人が稽古に來り、その夜道場主中脇鉄三郎の兄藤井喜太郎の家で酒宴を開いたと記されてゐるからである。

**タカタヤエモン** 高田彌右衛門 初め堀秀政。松平忠輝に仕へ、元和三年前田利常から二百五十石を受け、六年歿。子孫相襲いで藩に仕へる。

**タカタヤチガハ** 高田谷内川 鹿島郡佐野

村領おつるぎ谷から出で、佐味村領の海に入る。流程四軒餘。

**タカタランドウ** 高田蘭堂 高田石水の子。亦通稱を梅床といふた。弘化・嘉永の頃から寺子屋を開いて子弟に教授したが、明治の後小學教育に従事し、十五年十二月六十七歳を以て歿した。

**タカタリユウ** 高田流 書家井出正水の門下に高田方水があり、方水の子に文堂があつた。文堂は正水流の硬勁なるを變じて優婉となし、稍和様に近似せしめた。それから正水流が一に高田流と呼ばれることになつた。

**タカツカ** 鷹塚 鳳至郡道下の舊住吉社のあつた地に並ぶ丘をいふ。このあたりに古墳が多いといふから、鷹塚の名は高塚から轉じたものであらう。

**タカツカ** 高塚 江沼郡濁回に屬する部落。村名は古墳あるに因る。加越郡詳記天文廿一年朝倉宗滴出馬の條に、『千足城には濱十三村の大將大坂・鴻山津の大助・振橋の帶刀以下三千餘騎擁籠る。不叶とや思ひけん、搦手より高塚・動橋を指して落ちて行く。』とある高塚も亦こゝである。昭和十三年三月村清與門所有の宅地から多數の開元通寶を發掘した。

**タカツカザカ** 高塚坂 鳳至郡釜屋谷・蘇野兩部落の間の坂路。

**タカツカヒ** 高遠 ↓タカカタセワニ 高方世話人。

**タカツカヤマ** 高塚山 羽咋郡尊保山田の北にある山。高さ一六一米。地質第三紀層。

**タカツカヤマ** 高塚山 鳳至郡本内の部落東北に在る山。高さ二四〇米。地質第三紀層。

**タカツカヤマ** 高塚山 鳳至郡宮古場部落